

ヴァスムート氏所蔵吉田鉄郎著作関連資料整理報告

[資料紹介]

江本 弘*

Report of the material for Tetsuro Yoshida's German Trilogy donated by Ernst Wasmuth

EMOTO Hiroshi

This report is about the NAMA materials previously held by German publisher Ernst Wasmuth concerning three books, namely *Japanische Architektur* (1952), the second edition of *Das Japanische Wohnhaus* (1954; English translation 1955), and *Der Japanische Garten* (1957; English translation 1957), including photographs, original drawings, and layout instructions. Their author, Yoshida Tetsuro, was a leading architect of the Ministry of Communication of Japan during the inter-war period who retired there to work as a professor at Nihon University. Those materials seem to be prepared during the post-war period to his death from disease in 1956.

キーワード：吉田鉄郎、日本の住宅、日本の建築、日本の庭園、エルンスト・ヴァスムート

1. はじめに

本報告は、「ヴァスムート社旧蔵吉田鉄郎著作資料」（以下「ヴァスムート資料」）の調査報告である。本資料は2019年冬から国立近現代建築資料館で行われた「吉田鉄郎の近代——モダニズムと伝統の架け橋」展（会期：2019年11月1日～2020年2月11日）に際してエルンスト・ヴァスムート氏から寄贈されたものであり、吉田鉄郎（1894–1956）の「ドイツ語三部作」として知られる、『日本の建築』（1952年、以下『建築』）、『日本の住宅』（第二版1954年、同英語版1955年、以下『住宅』）、『日本の庭園』（1957年、英語版も同、以下『庭園』）の3著作の編集作業にかかわる¹。この資料群の整理は同資料館によって行われ、著者はこの整理に基づき、各資料に記された手書き文字の解説を行った。本報告では、その整理結果と併せて資料の概略を述べる。

2. 「ヴァスムート社旧蔵吉田鉄郎著作資料」 収蔵までの経緯

「ドイツ語三部作」の出版社である、ドイツの老舗建築系出版社、エルンスト・ヴァスムート社を出所とする。同資料の存在は、2008年5月19日に富山テレビで放送された、「平凡なるもの～建築家吉田鉄郎物語～」の取材経緯で明らかとなった。これをきっかけに資料の受け入れ先の問題が俎上に上ったが、本件は担当者の異動により頓挫した。その後、マンフレート・シュバイデル氏から、ヴァスムート社の閉鎖に伴う資料消失の危機に関する情報が伝えられ、国立近現代建築資料館に受入れが打診されたのは2018年8月のことであっ

た。当時、本件と並行して先述の「吉田鉄郎の近代」展の準備が進められており、本展に際して、吉田に造詣の深いシュバイデル氏と、ヴァスムート氏を会期中に招聘することとなった。両氏は2020年1月25日に開催された追加ギャラリートークの登壇者として来日したが、このときヴァスムート氏が資料群を持参、同氏の意向を汲み、そのまま国立近現代建築資料館収蔵に至った。

3. 整理方針

本資料群は『建築』、『住宅』改訂版、『庭園』で用いられた図版原図（写真、ドローイング）および試し刷りを中心に構成される。以下、その整理方針の概略を示す。

「ヴァスムート資料」全体に対応するフォンド番号「27」を頭に、以下「ファイル番号」、「アイテム番号」の順にハイフンで並列されたものが資料の通し番号となっている（例：「27-30-3」であれば、「ヴァスムート資料」内、ファイル「30」内のアイテム「3」を指す）。ファイル番号は三著作の戦後の出版順（①『建築』、②『住宅』、③『庭園』）にしたがい、かつ、レイアウト指示書とカバー関連資料を先頭におき、各著作内の対応する章番号の順につけられている。『建築』の場合であれば、ファイル番号「1」がレイアウト指示書、ファイル番号「2」がカバー関連資料、そしてファイル番号「3」から「12」までがIからXの各章資料に充てられ、ファイル番号「13」、「14」はその他の資料（封筒など）に充てられている。『庭園』に関しては、レイアウト指示書を冒頭におき、前付を別途ファイル番号「34」とした。ファイル番号「35」には桂離宮の飛石や庭園を写したフィルムが納められているが、これ

*京都美術工芸大学建築学部建築学科 講師、博士（工学）

表1 日本に送付された図面群

目録最終項目(ファイル～アイテム)

資料番号 開始	資料番号 終了	アイテム 点数	該当書籍	内容
27-1-1	27-1-11	11	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	レイアウト指示書
27-2-1	27-2-3	3	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	カバーデザイン画
27-3-1	27-3-8	8	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	I 章写真・図版
27-4-1	27-4-13	13	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	II 章写真・図版
27-5-1	27-5-15	15	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	III 章写真・図版
27-6-1	27-6-43	43	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	IV 章写真・図版
27-7-1	27-7-53	53	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	V 章写真・図版
27-8-1	27-8-25	25	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	VI 章写真・図版
27-9-1	27-9-21	21	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	VII 章写真・図版
27-10-1	27-10-37	37	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	VIII 章写真・図版
27-11-1	27-11-52	52	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	IX 章写真・図版
27-12-1	27-12-47	47	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	X 章写真・図版
27-13-1	27-13-22	22	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	シャルロット・ヨレス宛封筒
27-14-1	27-14-2	2	JAPANISCHE ARCHITEKTUR	レイアウト指示書(追加分)
小計		352		
27-15-1	27-15-6	6	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	カバーデザイン画
27-16-1	27-16-9	9	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	レイアウト指示書
27-17-1	27-17-8	8	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	I 章写真・図版
27-18-1	27-18-50	50	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	III 章写真・図版
27-19-1	27-19-18	18	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	IV 章写真・図版
27-20-1	27-20-29	29	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	V 章写真・図版
27-21-1	27-21-12	12	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	V、VI 章写真・図版
27-22-1	27-22-24	24	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	VII 章写真・図版
27-23-1		29	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	VIII 章写真・図版
27-24-1	27-24-9	9	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	IX 章写真・図版
27-25-1	27-25-41	41	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	X 章写真・図版
27-26-1	27-26-7	7	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	追加図版
27-27-1	27-27-9	9	DAS JAPANISCHE WOHNHAUS	初版との図版対照表／初版
小計		251		
27-28-1		1	DER JAPANISCHE GARTEN	レイアウト指示書
27-29-1	27-29-41	41	DER JAPANISCHE GARTEN	I 章写真・図版
27-30-1	27-30-50	50	DER JAPANISCHE GARTEN	II 章写真・図版
27-31-1	27-31-44	44	DER JAPANISCHE GARTEN	III 章写真・図版
27-32-1	27-32-41	41	DER JAPANISCHE GARTEN	IV 章写真・図版
27-33-1	27-33-96	96	DER JAPANISCHE GARTEN	不採用写真
27-34-1	27-34-5	5	DER JAPANISCHE GARTEN	包み紙／タイトル活字
27-35-1	27-35-16	16	DER JAPANISCHE GARTEN	桂離宮フィルム
小計		294		
総計		897		

らはカバー写真の候補であったと推測される。

この整理により、ファイル番号「1」から「14」が『建築』関連資料、「15」から「27」までが『住宅』関連資料、「28」から「35」までが『庭園』関連資料に割り振られた。なお、同一図版に関する資料には同一のアイテム番号が振られており、場合によっては複数の資料をもつアイテムがある。このアイテム数は『建築』関係352点、『住宅』関係251点、『庭園』関係294点で総計897点となっている²。

なお、「ヴァスマート資料」のファイル番号は、ヴァスマート氏の寄贈時に各アイテムが収められた封筒の振り分けに対応している。つまり、寄贈時点で各史料は章ごとに整理されていた。この封筒は寄贈に際して新たに準備されたものではなく、1950年代の編集作業当時に用いられたと考えられるものである。大判図版原図

以外の各アイテムにはいずれも帰属する封筒があるため、没図版も含めて、どの著作の資料かについては曖昧であったり不明であったりするものはほほない。また大判図版原図については、出版された著作との明らかな対応関係がある。なお、『住宅』改訂版第Ⅱ章に対応する資料はない。

以上の概要を表1「ヴァスマート資料の整理概要」にまとめる。

4. 史料整理の経過報告

上述の整理に基づき、2021(令和3)年度6月より手書き文字の解説を開始した。資料のスキャン(データ化)と並行して作業を進めており、2022(令和4)年度4月段階でスキャンがすべて完了した。

4.1. キャプションの解説

『建築』および『住宅』改訂版の資料のほぼすべてには、吉田鉄郎本人によるとみられる、鉛筆によるキャプションの書き込みが確認される。これらはほとんどがドイツ語の筆記体であり、その文字情報の読解を江本が担当した。吉田本人によるとみられるキャプションの筆跡はほとんどが走り書きであり、難読である場合も多い。かつ、消しゴムのようなもので何度も書き直した跡がみられる場合もある。こうした条件が読解を困難にし、判読不能な箇所が多々残されたが、スキャンデータを拡大するなどして、可能なかぎりの活字化を試みた。消し跡についても可能な場合は活字化し、消し跡である旨を注記した。一方、『庭園』資料にはキャプションの書き込みはなく、あったとしても消しゴムのようなもので消した消し跡となっており、消し残しや筆圧による凹みから辛うじて判読できる場合がある。

前2著作（『建築』、『住宅』改訂版）と後者の著作（『庭園』）の資料群にみられる吉田の肉筆の有無の違いは、吉田の病状の進行を表している。吉田に脳腫瘍が発覚したのは1949年5月のことだが、ここから吉田の病状は日を追うごとに悪化していった。その経過は『住宅』改訂版への書き込み文字の筆圧や震えからも推し量ることができる。その後、1955年初夏とされる『庭園』の執筆開始当時にあつては、吉田の病状はすでに深刻であり、「口も不自由、手も片方しか動かせない寝たきりの状態」³であった。『庭園』は近江栄およびその後任の森俣朗の協力のもと口述筆記で書きすすめられ、図版の選択やレイアウトの指示なども専ら口頭であったとされる。

4.2. 写真図版の修正指示

写真原図については、クロッピングのために紙を貼り付け、枠取りをしたものがまま見受けられる。その他、写真の内容に修正指示のあるものは、原図にトレーシングペーパーを重ね、その上に修正箇所とその内容が鉛筆で指示されている。そうした修正のなかでも顕著なものに、『住宅』改訂版の図119への指示がある（27-20-21）。この資料では障子の棧をすべて消す指示がなされており、この変更は実際の出版物にも反映された。

また『住宅』改訂版資料には、『住宅』初版の頁（バラされ、対象頁のみ）を用いて、改訂版への再掲の有無を手書きの「○」「×」印で指示している場合がある。これらの資料は、「○」と指示された図版と、出版された改訂版の図版位置とを対照させて整理してある。

4.3. 出版物との異同の概略

「ヴァスムート資料」内の鉛筆書きのキャプションと、出版された3部作のキャプションはおおむね一致している。ただし全般的に、ドイツ語の表現として簡略かつ自然なものに改められる傾向にある。また、特に配置図を中心としたドローイングについては、日本語の固有名詞（施設名）が多くなる場合に、出版物のキャプションではそれらを省略し、一般名詞にまとめるなどの変更がみられる。こうした変更は、『住宅』初版以来の協力者である、シャルロッテ・ヨレスに一任されていたと考えられる。

『建築』および『住宅』改訂版資料には頁ごとの割り付けを指示した、吉田作成とみられるレイアウト指示書が含まれる。『庭園』の組み付けにもそれらと同様の「本の体裁に綴じたもの」⁴が作成されたとの回想があるが、「27-28-1」がこれにあたるとみてよい。しかしその作成者は吉田本人ではなく、森俣朗である。

これらのレイアウト指示書の内容も出版物とほぼ一致している。

4.4. 寸法等書き込みの解説

その他の書き込みとして、原図寸法と印刷寸法の指示、通し番号とみられる数字表記などがみられるが、これらの記入者はヴァスムート社を含むドイツ現地の業者だと考えられる。これらはすべて所定のフォーマットに則っており、判読も容易であることからすべて活字化することを得た。資料には同じくドイツの業者によるとみられる4桁の数字（「9335」や「1256」など）が鉛筆で記載されている場合があるが、その意味は未詳である。

4.5. 補足：『建築』関連資料の提供時期よりみる

「ヴァスムート資料」一群の作成時期

『建築』の執筆が始まったのは『住宅』初版出版から間もない1935年秋から1936年春のことであり⁵、本文自体は戦中の1940年代初頭までには完成していたとみられる。一方、「ヴァスムート資料」を構成する『建築』関係の写真図版やレイアウト指示書などが吉田からヴァスムート社に提供されたのは、戦後のことだと考えられる。

これは、ファイル13の封筒類に書かれた住所から推測できる。ここに書かれた宛名は前述の協力者シャルロッテ・ヨレスだが⁶、その住所はワトフォード（イングランド）の「リトル・ナスコット（Little Nascot）」となっている。1930年代初頭に吉田と知り合った当時のヨレスはドイツ（ノイバーベルスベルク）に住んでいたが、1939

年初ごろにイギリスに亡命した。ただし、第二次世界大戦終戦までのヨレスの住所はワトフォードの「グローブ・リー (Grove Lea)」であり、吉田がその後のヨレスの引越先であるリトル・ナスコットの住所を知りえたのは、戦後1949年2月以降のことだったと考えられる⁷。

「ヴァスマート資料」中には、『住宅』第2版と『庭園』の送付時期同定に関連する住所の情報は見当たらない。しかしこれらの制作は少なくとも戦後に入ってからのものであり、より具体的には『建築』出版後のことだとみられる。すなわち、エルンスト・ヴァスマート社が「ヴァスマート資料」の一群を取得した時期は、戦後の1940年代末から1950年代半ばまでの、約5年間あまりに集中していたと推定されるのである。これもまた、「ヴァスマート資料」の来歴を理解する上で付記しておくべきだろう。それは、『住宅』ドイツ語初版の編集にかかわる資料がおおよそ未発見である一方で、『住宅』第2版を含む戦後の「ドイツ語三部作」の編集にかかわる資料がこのように、一群として、全体性の高い状態で保管されていた理由を示す傍証だからである。

謝辞

本報告は、NTTファシリティーズの吉岡康浩氏（当時）および堀田渡氏の助言、国立近現代建築資料館の寺内朋子氏による収蔵手続きと目録作成、スキャニング作業に多くを負っている。ここに記してお礼申し上げる。

（2022年5月9日原稿受理）

注

- 1 Tetsuro Yoshida: *Japanische Architektur*, Ernst Wasmuth, 1952; idem, *Das Japanische Wohnhaus*, Ernst Wasmuth, 1954; idem, *The Japanese House and Garden*, Marcus G. Sims, tr., The Architectural Press, 1955; idem, *Der Japanische Garten*, Ernst Wasmuth, 1957; idem, *Gardens of Japan*, Marcus G. Sims, tr., The Architectural Press, 1957.
- 2 なお、27-34-5のタイトル活字は『住宅』英語版 (*The Japanese House and Garden*) のもの。
- 3 森俣朗：吉田さんと『日本の庭園』，建築家・吉田鉄郎の『日本の庭園』，鹿島出版会，p.187，2005
- 4 同前
- 5 1935年9月24日付吉田鉄郎宛シャルロッテ・ヨレス書簡（#14010）、14011 1936年3月27日付吉田鉄郎宛シャルロッテ・ヨレス書簡（#14011）。ともにNTTファシリティーズ蔵。
- 6 シャルロッテ・ヨレスの略歴および『日本の住宅』初版（1935）での吉田との協働については、以下の論考を参照。江本弘：吉田鉄郎『日本の住宅』（1935）の誕生：書簡史料を中心としたその編集経緯に関する研究，京都美術工芸大学紀要，第2号，pp. 20–34，2022.3
- 7 NTTファシリティーズ蔵、1949年2月4日付吉田鉄郎宛シャルロッテ・ヨレス書簡（#14030）がヨレスのリトル・ナスコットの住所を記した現存で最も古い書簡である。なお本書簡はその内容から、ヨレスから吉田に宛てられた、戦後最初のものだと考えられる。